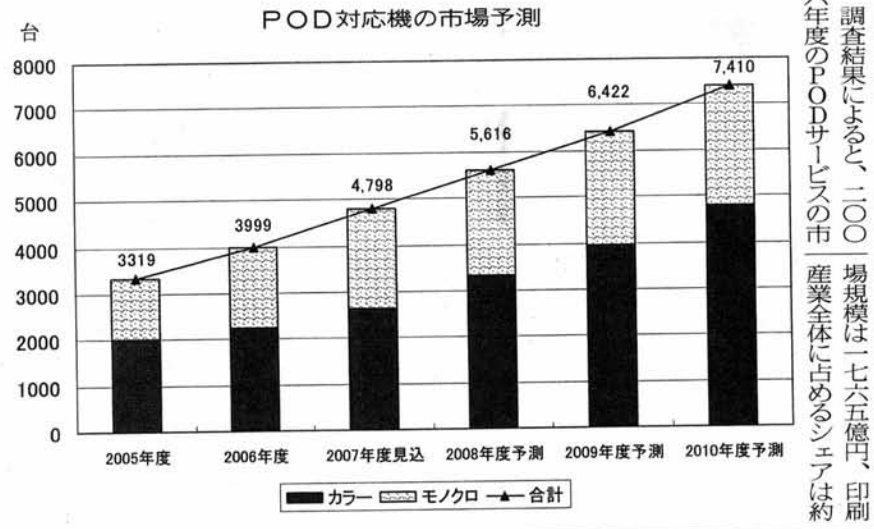


POD市場2桁成長継続

06年度は1765億円に

矢野経済研究所 矢野調

POD（オンデマンド印刷）市場は、デジタル技術を活かした印刷ビジネスの拡大により2桁成長を継続する見込みであることが、矢野経済研究所が実施した調査により明らかになった。二〇〇六年度のPODサービスの市場規模は一七六五億円、年率一〇％以上の成長を遂げ、一方で高機能化の進むカラー機が市場を牽引し、POD対応機の出荷台数は約四千台に達すると予測している。



調査結果によると、二〇〇一市場規模は一七六五億円、印刷六年度のPODサービスの市 産業全体に占めるシェアは約二％とみられる。年率一〇％以上の成長を続けており、二〇〇九年には二四四七億円に達する。

一方、POD対応機の二〇〇六年度の出荷台数は約四千台で、年率一五・二〇％の成長を続け、二〇一〇年には約七千四百台に達する。カラー機が過半数を占め、モノクロ機と比較して伸び率も高い。複写機大手メーカーを中心としたPOD対応機ベンダーは、二〇〇七年にリコーが米IBMの印刷部門を買収、キヤノングループが商業印刷向けの機種を発売開始するなど、軒並みプロ向けの市場の強化を図っている。

POD市場成長の要因となっているのは、携帯電話やクレジットカードの明細書印刷、DMの宛名印刷など、大量高速印刷需要の拡大であ

る。これには、個人情報保護法の施行後、印刷工場にセキュリティ設備が整った大手印刷会社に印刷業務をアウトソースする動きが続いたためである。

他方、従来型の小ロット、短納期対応のオンデマンド印刷は印刷業の末端まで浸透したものの、印刷単価の下落などによりビジネス性の悪化が顕在化しつつある。

秋の叙勲・褒章

高橋靖氏に旭日中綬章

大橋茂氏は旭日双光章



高橋 靖氏



大橋 茂氏

平成十九年秋の叙勲・褒章で、印刷産業から大橋茂元東

京都印刷工業組合副理事長が旭日双光章、藤田東久夫(株)

サトー代表取締役執行役員会長兼最高経営責任者が藍綬褒章を受けた。また、関連産業から、高橋靖大日精化工業(株)代表取締役社長・元印刷インキ工業会会長が旭日中綬章を受けた。

大橋氏と高橋氏は、十一月

省力化と納期短縮を実現する手法が開発されている。現時点では普及していないものの、POD市場のビジネスプレイヤーはデジタル技術を活用した高付加価値サービスを志向しており、注目度は高い。これらの新分野で市場活性化が促進されるとみられる。

印刷機の高機能化が加速し、PODの用途拡大を後押しする。また、新分野への対応を実現するためにはベンダーの支援は不可欠であり、IT技術を活かした説得力のあるソリューション提案など、サービス面での差別化が進む。このような状況下で、富士ゼロックス、キヤノン、コニカミノルタ、リコーを中心にベンダーのシェア争いが続

七日午前十時半から東京プリンスホテル二階「鳳凰の間」で勲章の伝達を受けたのち、午後二時五十分から皇居「春秋の間」で天皇陛下に拝謁する。

藤田氏は、十六日午前十時から東京プリンスホテル二階「鳳凰の間」で褒章の伝達を受けたのち、午後一時半から皇居「春秋の間」で天皇陛下に拝謁する。

旭日中綬章
高橋 靖氏
大日精化工業(株)代表取締役

調査は、二〇〇七年六月から九月にかけて、国内POD対応製品ベンダー一三社、国内オンデマンド印刷事業者三社を対象に面接取材に電話・Eメールなどを併用してPOD(プリント・オンデマンド/オンデマンド印刷)市場について実施された。

結果は、POD対応出力機器ベンダーの市場動向調査資料「POD市場の実態と展望二〇〇七」(A4判、一四一頁、定価税込み一〇万五〇〇〇円)、印刷会社を中心としたPODサービスの市場動向調査資料「二〇〇七年版 オンデマンド印刷市場の展望と戦略」(A4判、一四四頁、定価税込み一〇万七一〇〇円(税込))として刊行された。